

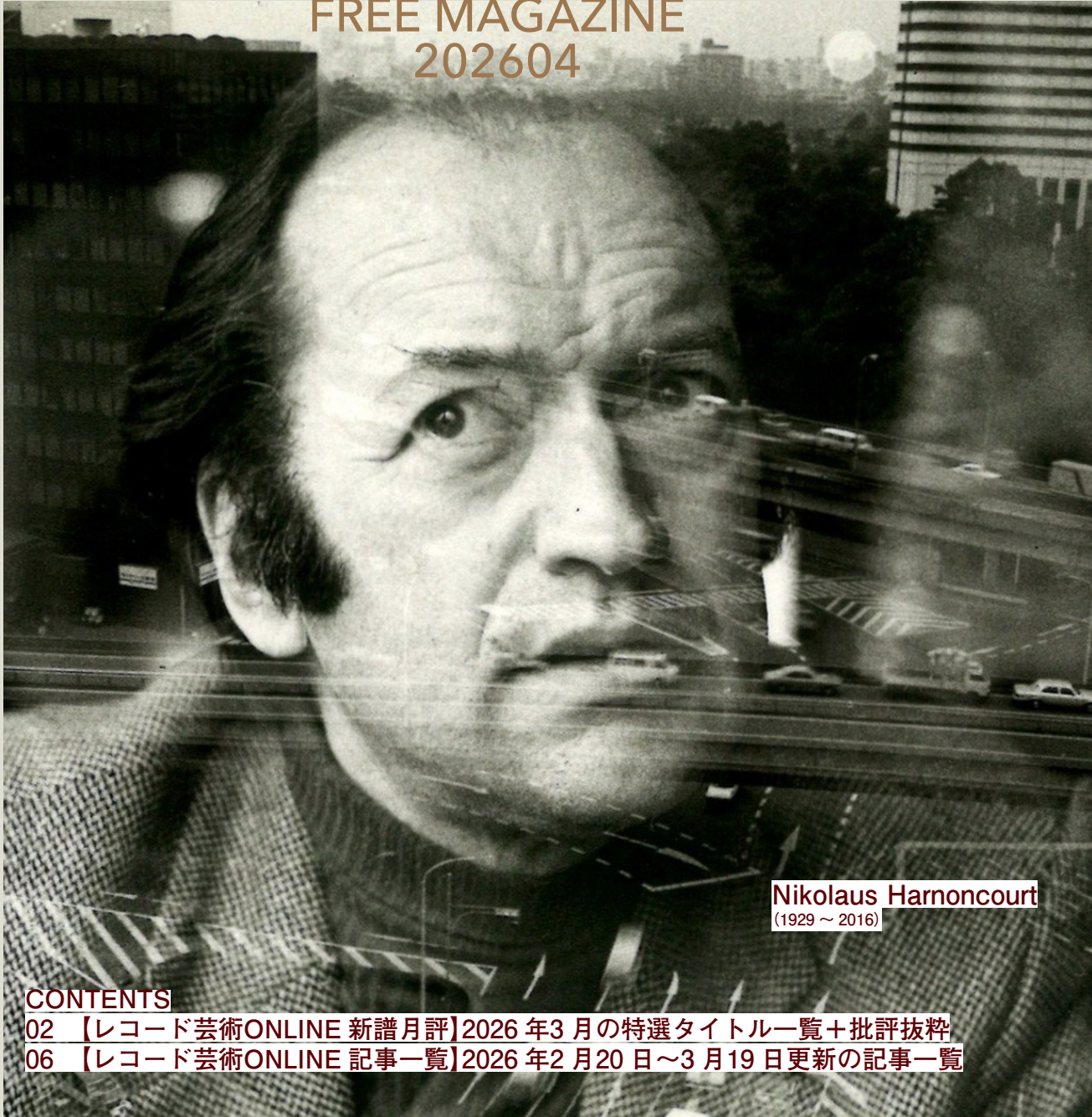
TAKE
FREE

クラシック音楽メディアのポータルサイト

レコード芸術 The Record Geijutsu ONLINE

FREE MAGAZINE
202604

特別企画「カール・リヒターとアーノンクール」展開中♪



Nikolaus Harnoncourt
(1929 ~ 2016)

CONTENTS

02 【レコード芸術ONLINE 新譜月評】2026年3月の特選タイトル一覧+批評抜粋

06 【レコード芸術ONLINE 記事一覧】2026年2月20日~3月19日更新の記事一覧

★レコード芸術 ONLINE はこちらから→



制作：「レコード芸術 ONLINE」編集部

レコード芸術 ONLINE、フリーマガジン第8号です。 掲載記事 2,600 本*突破！ ぜひ有料会員登録をご検討ください♪

音楽之友社が運営するポータルサイト『レコード芸術 ONLINE』編集部フリーマガジンです。第8回の今号には、2026年3月の「新譜月評」特選タイトル一覧＋批評抜粋、直近1ヶ月の記事一覧を収録しました。本サイトは月額1,100円（税込）。無料コンテンツも続々。クラシック音楽メディアの芸術史を未来へつなげる批評の場、そして現在を記録・発信する情報の場として、日々更新を続けています。

* 2024年10月からの累計。新譜月評のディスクページを含む。2026年3月19日現在

「レコード芸術 ONLINE」編集部

契約から最初2ヶ月間が100% OFFとなる「年間契約プラン」を開始しました。
詳細は右側のQRコードから♪

レコード芸術 ONLINE はこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/>

←の有料会員お申込みページはこちらから♪



<https://recogei.ontomo-mag.com/order/>

【レコード芸術 ONLINE 新譜月評】 2026年3月の特選タイトル一覧＋批評抜粋



特選＝ダブル評を行ったもので、2名とも「推薦」評価／筆者は敬称略、五十音順／特記のないものは通常CDです



それぞれの批評全文＋他の音源については、
有料会員限定コンテンツとして
「レコード芸術 ONLINE」上でお読みいただけます♪

https://recogei.ontomo-mag.com/disc_review/backnumber/202603/

●オーケストラ曲

	<p>ウィーン・フィル ニューイヤー・コンサート 2026 ヤニック・ネゼ＝セガン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 [ソニー・クラシカル (D) SICC2394～5 (2枚組)] ♪ティーレマンやムーティといった「コワモテ」解釈の指揮者がこの2年間連続で指揮台に上がったニューイヤー・コンサートに、ドゥダメル以来の若手（といっても既に今年50歳だというが）としてネゼ＝セガンが登場。当然、フレッシュな演奏を期待したくなるが……（小宮） ♪毎度のことだが、最初に映像つきで体験したものを、音だけで聴くというのは面白い […] 聴くことだけに集中してみると、これはこれで気がつくことがたくさんある […] さて今年は初登場のネゼ＝セガン。3つのテーマを掲げた。第1はウィーンの文化を世界に響かせ、他の文化と認めあうこと……（山崎）</p>
	<p>ハイドン 2032 交響曲全集 第18集 ジョヴァンニ・アントニーニ指揮バーゼル室内管弦楽団 [アルファ (D) NYCX10562] ♪アントニーニの下、彼の手兵ともいえるイル・ジャルディーノ・アルモニコとバーゼル室内管弦楽団が演奏を分担しながら進行しつつある一大プロジェクト。第18弾となる当アルバムでは、後者の担当となっている他、アルバムの最後にはハイドン晩年の弟子であるレッセルの作品も取り上げられている……（小宮） ♪テーマは、交響曲第55番のニックネームに因んだ“校長先生” […] バーゼル室内管は、金管やティンパニにオリジナル楽器を用いているだけでなく […] モダン・オーケストラによるペリオド楽団の擬態化とは、それこそ一線を画したサウンドが保たれているのが印象的だ……（満津岡）</p>

 <p>Richard Strauss Also sprach Zarathustra Sinfonia Domestica Eine Alpensinfonie</p> <p>秋山和慶 読売日本交響楽団 新日本フィルハーモニー交響楽団</p>	<p>R. シュトラウス名演集 秋山和慶指揮 読売日本交響楽団, 新日本フィルハーモニー交響楽団 [東武レコーディングズ (D) TBRCD0182 (2枚組)] ♪秋山の急逝からはやくも1年。その存在の大きさをあらためて噛みしめる1年でもあった。作品の姿を在るがまま、すぐれたアンサンブルの精度を保ちながら聴き手に届け、自分は作品、あるいは作曲家から一歩引いた立場で良しとする、その姿勢こそが…… (広瀬) ♪このところ秋山和慶のライブ録音が次々とリリースされているが、当盤は、読売日本交響楽団と新日本フィルハーモニー交響楽団を指揮したりヒヤルト・シュトラウスという珍しいものだ。日本全国のオーケストラを指揮していた秋山だが…… (増田)</p>
 <p>Górecki 3</p>	<p>グレツキ：交響曲第3番《悲歌のシンフォニー》 クシシュトフ・ウルバンスキ指揮ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団, ミハウ・スワヴェツキ (C-T) エディタ・クシェミェン, アンナ・フェドロヴィチ (S) [CD Accord (D) ACD351 (海外盤・日本語解説付)] ♪《悲歌のシンフォニー》は、1991年に録音されたジンマン指揮ロンドン・シンフォニエッタのノンサッチ盤が、イギリスのFM放送でオン・エアされた後、世界的にヒットした作品 […] ウルバンスキは、3つの楽章にそれぞれ別の歌手を起用…… (満津岡) ♪本ディスクは、この「忘れられかけた」作品の真価を改めて世に問い直す、貴重な録音である。あのブームから35年、そして作曲から50年たった今年は、この作品を冷静に再検証する良いタイミングとも言えるだろう […] まっさらな気持ちでこの曲を聴き直してみると…… (松平)</p>
 <p>THE PHILHARMONIC BRASS TUGAN SOHIEV OVERTURE!</p>	<p>オーヴァチュア！ トゥガン・ソヒエフ指揮フィルハーモニック・ブラス [Supreme Classics (D) SMGG009] SACD ハイブリッド ♪ベルリン・フィルとウィーン・フィルのメンバーを中心とした23名の金管・打楽器奏者が集結し […] トゥガン・ソヒエフが指揮した「フィルハーモニック・ブラス」のファースト・アルバム。タイトル“オーヴァチュア！”が示すとおり…… (後藤) ♪SACD化されたことで、この演奏の特徴でもあった少しくすんだ美しい音色とともに、柔軟できめ細かく繊細な演奏のニュアンスがさらにクローズアップされている。それは指揮のソヒエフの功績でもある […] オーケストラの良質な面を尊重しつつ、自らの個性も刻印することを忘れない彼のスタンスは、このディスクでも同じだ…… (西村)</p>

●室内楽／器楽曲

 <p>WOLFGANG AMADEUS MOZART Sonatas for fortepiano & violin FAUST MELNIKOV</p>	<p>モーツァルト／ヴァイオリン・ソナタ集 Vol.4 イザベル・ファウスト (vn) アレクサンドル・メルニコフ (fp) [Harmonia Mundi (D) HMM902617 (海外盤)] ♪全集のプロジェクトはこれで15曲 […] これまでと同様に、両者の丁々発止のやり取りが非常に興味深い。「ヤンチャ小僧」を絵に描いたようなメルニコフと、彼に真正面に向き合いながらもノーブルさを失わないファウスト。水と油のような関係に聞こえなくも…… (安田) ♪現代のモーツァルト／ヴァイオリン・ソナタ解釈・演奏の美しい成果を刻印した名盤の登場である。このコンビによるシリーズの完結編だが、二人の演奏は2017年録音の第1集よりもいっそう落ち着きを増し、二つの楽器の音色やバランスを捉える録音も進化…… (芳岡)</p>
 <p>'round midnight DUTILLEUX MERLIN SCHOENBERG quatuor ebène antoine lamestti nicolas alstaedt</p>	<p>ラウンド・ミッドナイト エベヌ弦楽四重奏団, アントワン・タメスティ (va) ニコラ・アルトシュテット (vc) [エラート (D) WPCS28513] SACD ハイブリッド ♪暗く不安に満ちた空気で始まる「夜」へのオマージュは、やがて官能的な熱を帯び、最後は清らかな夜の神秘に至る […] デュティユーの《夜はかくの如し》は […] エベヌ弦楽四重奏団の緻密なレアリゼーションが生きて、旋法と無調の間を揺れ動きながら繊細に織り合わされた楽想の絡み合いを巧みに表現する…… (白石) ♪《夜はかくの如し》は […] どの団体も繊細な音楽作りをしていて、新しいリリースのたびに感心する。魅力的なモチーフが散りばめられた作品で、エベヌの演奏はねっとりとした抒情性を醸すかと思えば、例えば〈リタニ〉の部分のピッツィカートの応酬など…… (長木)</p>
 <p>BARITONISM III Yves Baudry (composer) MAKOTO HONDO</p>	<p>バリトニズムⅢ～遙かなる地の詩 本堂誠 (Br-Sax) 羽石道代 (p) [クリストン (D) OVCC00184] SACD ハイブリッド ♪本堂誠が取り組んでいるのはほとんどバリトン・サクソフォーン1本での活動。「バリトニズム」と題したこの楽器のソロCDも、これが3枚目 […] 今回は国民楽派の作曲家によるチェロをオリジナルとする作品が特集されている…… (後藤) ♪本堂の新作は、国民楽派の作曲家たちがチェロのために書いた作品を集めた。これまでもチェロの作品をバリトンに置き換えることで全く新しい聴体験をさせてくれたが、今回のアルバムではさらに進化した領域に到達したとも言える見事な演奏を繰り広げている…… (西村)</p>

	<p>ショパン／マズルカ集 第1巻 ラファウ・ブレハッチ (p) [グラモフォン (D) UCCG45133] ♪ポーランド出身者だけがマズルカを分かるなどと、偏狭なことはいいたくない。外部の視点によってひらかれる作品の別の可能性があるからこそ、私たちは様々なバックグラウンドをもつ奏者によるショパンに触れることをよろこびとするのだろう。ただこのラファウ・ブレハッチによる《マズルカ》集を聴くと…… (新野見) ♪たくさん聴いたら飽きるかと思いきや、だんだん面白くなってくるからブレハッチの腕を改めて認めざるを得ない。初期の作品は音も素朴で、なんとなくぎこちない音運び。ブレハッチの朴訥な側面がそのまま音に表れる。ところが…… (野平)</p>
	<p>2025年第19回ショパン国際ピアノ・コンクール・ライヴ エリック・ルー (p) アンドレイ・ボレイコ指揮ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団 [NIFC (D) SNIFCCD800 (2枚組)] ♪ショパン国際ピアノ・コンクールは […] 多くの音楽ファンがすでに動画で視聴している“コンテンツ”である。だが、主催のショパン研究所がリリースするライヴCDを手にして聴くことの意義をあらためて大きく感じたのが […] このアルバムである…… (飯田) ♪2枚のCDは収録時間の関係で、第1次予選からファイナルまで順不同で収められているが、まず1枚目冒頭の《バラード第4番》からすでに彼のピアノズムの本質が見えてくる。美しく滴り落ちるような詩的な旋律の歌い回しにまず耳を奪われるが、曲が進むにつれて…… (草野)</p>
	<p>1960年第6回ショパン国際ピアノ・コンクール・ライヴ マウリツィオ・ポリーニ (p) カトレヴィチ指揮ワルシャワ・フィルハーモニー管弦楽団 [NIFC (E) SNIFCCD666 (2枚組)] ♪2枚のディスクに第1次予選から本選までの演奏が収録されている。当時ポリーニは18歳。「この若者は私たちの誰よりもピアノをうまく弾く」とは同コンクール名誉会長のルーベシユタインの言葉だが、この録音を聴くとその真意がよく分かる…… (那須田) ♪1960年のライヴ録音という年代物のモノラル録音(疑似ステレオ化)なのに、なんと立体的な演奏なのだろう。《即興曲》第3番では再現部において郷愁が漂い、この小品の儚さを表現している。《練習曲》Op.10-1は打って変わって現実的…… (野平)</p>
	<p>ブラームス／後期ピアノ作品集 ピオトル・アンデルシェフスキ (p) [ワーナー・クラシックス (D) WPCS13883] SACDハイブリッド ♪現代もっとも知的なピアニストのひとりアンデルシェフスキ […] 新譜は、ブラームスの後期作品集。Op.116～119の4つの曲集 […] から12曲を選んでいる。興味深いのは、その12曲を自由に並べ、また異なる曲集からの2曲でも、曲間をほぼ空けずにトラックを繋げるようにして収めている点…… (飯田) ♪ヨハネス・ブラームスという作曲家とピオトル・アンデルシェフスキという音楽家の相性をどうみるか […] われわれの知るアンデルシェフスキの意志の力は諦念に至るには強靱にすぎるし、無心に美を愛でるには鋭すぎる。事実本盤の演奏には…… (新野見)</p>
	<p>Heimat ～故郷 三浦謙司 (p) [ワーナー・クラシックス (D) WPCS13884] SACDハイブリッド ♪彼は日本人でありながら世界中を巡っており、なかでもドイツで過ごしている時間が最も長い。自身のそんなあり方、そして自らの「故郷」について改めて考えたことで生まれたのが本盤である。これまで […] 華やかな楽曲を主なレパートリーとしてきた三浦…… (長井) ♪三浦謙司自身がライナーノーツで述べているように、彼はこれまでドイツという国への帰属意識をもったことはなかったという。そうでありながらついに三浦はドイツそしてドイツ音楽を自らの故郷 Heimat と見定めた。つまりそれは…… (新野見)</p>
	<p>ラヴェル／ピアノ独奏曲全集 イリーナ・メジューエワ (p) [Bijin Classical (D) BJN1040～41 (2枚組)] ♪最初に《古風なメヌエット》から始まるが、冒頭から一聴してメジューエワのラヴェルへのピアノズムが明確に示されている。全体は歯切れの良いタッチと明るい音色で、古き良き時代へのオマージュとしてメヌエットが息を吹き返している。《水の戯れ》は…… (草野) ♪メジューエワのラヴェルに対するアプローチは、十八番であるメトネルやラフマニノフ、ショパンに対するそれと基本的に同じである。楽器を隅々まで鳴らして作り出されるとこまでも深い響きが音楽の土台となり、そのうえに息の長いカンタービレと多彩な装飾が腰を下ろす…… (八木)</p>

	ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ集 Vol.2
	北村明日人 (p) [トリトーン (D) OVCT00217] SACD ハイブリッド
	♪素晴らしい若手ピアニストの登場である [...] 特にドイツ古典派からロマン派にかけての演奏には注目すべきものがある。今回のベートーヴェン／ピアノ・ソナタ集の第2集では《月光》を含む3曲が録音されているが、いずれも現在の彼のベートーヴェン像が明確に表現されている…… (草野)
	♪《月光》の第1楽章は徹底した弱音で抑制。第2楽章で現実的な音になるのかと思ったら、テンポはゆったり。そして終楽章で解放されたかのように一気に攻める。まさに正真正銘のプレスト・アジタート。興味深いのは、クレッシェンドやアツチェレランドに19世紀の演奏習慣を感じさせると同時に音楽の自然な感情に乗っていること…… (那須田)

●オペラ／声楽曲

	ブルックナー：テ・デウム, ミサ曲第3番
	パブロ・エラス＝カサド指揮南西ドイツ放送交響楽団, SWRヴォーカル・アンサンブル, ケルン放送合唱団, 他 [SWR (D) NYCX10566]
	♪ちょっと驚くほど良い演奏に仕上がっている。まず言えるのは、絶叫に傾きがちな前者の合唱が、まったくうるさくないこと。残響が豊かな録音のせいもあるが、バランスの取れた、良い意味で飽和した響きが、教会風の空間のなかに自然に立ち現れてくる…… (城所)
	♪パブロ・エラス＝カサドのブルックナーといえば、アニメ・エテルナを指揮した第4交響曲(第2稿)がすでにあり、時代楽器によるユニークなソノリティも手伝って大変話題になった [...] モダン放送オケと放送コーラスと組んだものだが、衝撃度はあちらに負けていない…… (船木)
	モーツァルト：大ミサ曲ハ短調 K.427〔グリエルミ版〕
	ジョルディ・サバル指揮ル・コンセル・デ・ナシオンズ, ラ・カペラ・ナショナル・デ・カタルーニャ, 他 [Alia Vox (D) AVSA9965 (海外盤)] SACD ハイブリッド
	♪魅力的な録音を続々とリリースしているジョルディ・サバルが、今度はモーツァルトの《大ミサ曲》ハ短調を発表した。ピリオド楽器の発達・進化をもたらしたアーティキュレーションとフレージングの深化は、演奏技術の飛躍的な進歩と表現の自在さをもたらした。その成果がこの録音でも顕著に聴き取れる…… (國土)
	♪鍵盤楽器奏者のルカ・グリエルミによる補筆・再構成・完成版による録音 [...] グリエルミはK.427の完成部分に基づいたオラトリオ《悔悟するダヴィデ》K.469で追加されたソプラノ・アリアを利用するなど、レヴィンに近いが、このアリアを2つの楽章で分割して利用したレヴィンに対して、グリエルミは…… (安田)
	千の魅力
	グレイス・デイヴィッドソン (S) ジュリアン・パーキンズ (cemb)
	[シグナム (D) JSIGCD960]
	♪シェイクスピアと同時代のチャンピオンから18世紀のヘンデルまで、ロンドンで活躍した作曲家たちの名曲を、同地生まれのソプラノがチェンバロの名伴奏で歌い上げた一枚。特筆すべきは、歌うグレイス・デイヴィッドソンの硬質の美声…… (岸)
	♪タイトルはここで録音されているJ.プロウの《サビーナは千の魅力を持っている》から取られている [...] イングランドの作曲家による英語の歌はやはり英語を母語にする歌手によって歌われることでその良さが倍増する。作品の規模は時代の変遷に従って…… (河野)

※今月は「音楽史」「現代曲／ポスト・クラシカル」「その他」の特選作品はございません

[2026年3月の新譜月評執筆者一覧]

※敬称略、五十音順

相場ひろ 飯田有抄 石原立教 石原勇太郎 小畑恒夫 岸純信 喜多尾道冬 城所孝吉 草野次郎 河野典子
 國土潤一 後藤洋 小宮正安 小室敬幸 白石美雪 鈴木淳史 長木誠司 長井進之介 那須田務 新野見卓也
 西村祐 沼野雄司 野平多美 広瀬大介 布施砂彦 船木篤也 増田良介 満津岡信育 松平敬 水谷彰良
 美山良夫 八木宏之 矢澤孝樹 安田和信 谷戸基岩 山崎浩太郎 山野雄大 山之内正 芳岡正樹 鷲野彰子

【レコード芸術 ONLINE】 2026年2月20日～3月19日更新の記事一覧

※有料会員限定コンテンツを含みます

注目記事

[伊福部昭と芥川也寸志]

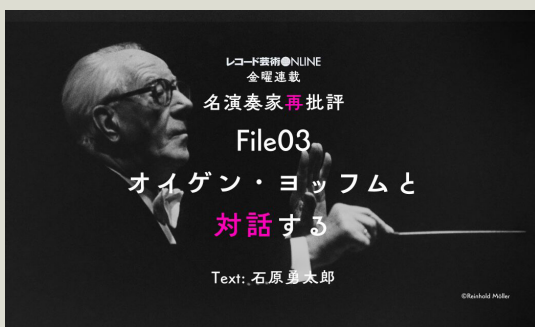
芥川也寸志を深める11のディスク | 満津岡信育
伊福部昭《シンフォニア・タプカーラ》主要録音比較 | 山野雄大

[カール・リヒターとアーノンクール]

アーノンクールの後期ロマン派レパートリー あるいは19世紀音楽観の変革について | 広瀬大介
チェンバロ録音史のなかのカール・リヒター J.S. バッハ《ゴルトベルク変奏曲》を巡って | 飯田有抄
再発見 & 再評価! リヒター & アーノンクールの“隠れ”名盤たち | 増田良介

[連載] 名演奏家再批評

File02 古楽の視点で語る 初期録音の名演奏家③～④ | 布施砂丘彦
File03 オイゲン・ヨッフムと対話する①～② | 石原勇太郎



[お知らせ] 【2026年3月リリース予定】クラシック音楽新譜 発売情報

[お知らせ] 「不滅の名盤」特設コーナーに、25点を追加しました!

[お知らせ] フリーマガジン第7号配布開始!

[お知らせ] クラシック音楽 海外盤リリース情報 (2026年3月)

[2026年2月新譜月評] 音楽史、現代曲/ポスト・クラシカル、その他

[2026年3月新譜月評] オーケストラ曲、室内楽/器楽曲、鍵盤曲、オペラ/声楽曲

[最新盤レビュー] マリンバ奏者、ミカ・ストルツマン最新作 ジャズ名手との共演で臨む「bar」の向こう側 | 東端哲也

[最新盤レビュー] イギリスの名手クーパーがベートーヴェンの後期3大ソナタを初録音 | 西村祐

[最新盤レビュー] リイシュー & BOX 注目盤 (2月) | 編集部

[最新盤レビュー] 人気沸騰中のアリス・アデル その録音集成が示す、終わりなき音楽の旅 | 平野貴俊

[最新盤レビュー] バッハ・コレギウム・ジャパンが世に問う メンデルスゾーン《讃歌》の真価をひらく新録音 | 寺西肇

[インタビュー] 名盤でたどる巨匠指揮者88人 山崎浩太郎が語る『巨匠指揮者列伝』の読みどころ | 青野泰史

[特別寄稿] ルイ・クーブランに魅せられて | 谷戸基岩

[特別企画] 東日本大震災にまつわるクラシック音楽ディスク10選 | 編集部

[特別企画] ライヴアルにして良き理解者 舞台に咲いた「同期の桜」 | 編集部

[連載] 音符の向こう側 第17回 | 城所孝吉

[連載] プレルーディウム 第18回 分からないはずなのに | 船木篤也

[連載] トーキョー・モデュレーション 第18回 リンゴのような音楽が春を告げる | 沼野雄司

[レコ芸アーカイブ] 名演奏のディスコロジー 第3回 (1976年3月号) コリン・デイヴィスのシベリウス | 柴田南雄

不定期掲載 今月のパズル！
(答えはページ下部にあります)

1&2				3
	4			

横のヒント

1. J.S. バッハのカンタータ第 208 番《楽しき狩りこそわが悦び》の第 9 曲〈羊は安らかに〇〇〇〇〇〉
4. 1929 年にアーノクールが生まれたドイツの都市

縦のヒント

2. J.S. バッハと同時代人で、フランスの宮廷で活躍した作曲家フランソワ・〇〇〇〇〇
3. 1954 年にカール・リヒターが設立した団体「〇〇〇〇〇・バッハ管弦楽団」

広告募集中

お問い合わせ：

(株) 音楽之友社「レコード芸術 ONLINE」編集部

〒162-8716 東京都新宿区神楽坂 6-30 / E-mail: reco_online@ongakunotomo.co.jp

【レコード芸術 ONLINE 公式 SNS のご案内】

記事の更新情報などを発信しています♪

また、お読みになったご感想を、#レコード芸術 ONLINE を添えてぜひご投稿ください。



レコード芸術 ONLINE 公式 SNS の QR コードをスキャンしてください。

クラシックの名盤300点が集結！



これまでの膨大なクラシック録音の中から、『レコード芸術』誌などで高く評価された定評ある名盤300点を選び、その演奏の特徴を紹介していきます。録音の選定は満津岡信育氏、山崎浩太郎氏、音楽史を矢澤孝樹氏が担当しました。ディスク紹介は豪華執筆陣が登場、1点あたりの紹介文をたっぷりとり、不滅の名盤ぶりがよくわかる充実の内容となっています。オールカラーページ。

ONTOMO MOOK新刊

クラシック不滅の名盤300

レコード芸術ONLINE 編

定価2,750円(本体2,500円+税) B5判・168頁 ISBN: 9784276963856 発行: 音楽之友社

2026年3月27日発売

「クラシック不滅の名盤300」についてのお問い合わせ:

(株)音楽之友社営業部 〒162-8716 東京都新宿区神楽坂6-30 ☎03(3235)2151

詳細はこちらから→

